

2017年6月19日

武漢大学が「ポケット」インテリジェント配電ボックスを発表

昨日、武漢大学電気工程学院が新世代の知能遠隔制御配電ボックスを発表した。電気漏れ、過熱、ショート、過負荷などの電気使用状況をオンラインリアルタイムで監視制御することで、市民がもっと安全に電気を使うことができるようになるものである。

現場でのプレゼンテーションでは、従業員がライブカメラを使用し、携帯電話で深セン市にあるオフィスのエアコン、照明などの電気回路をコントロールした。電気の1秒あたりの電圧、電流、電気量も一目瞭然である。システムは5秒以内にスタッフの携帯電話に故障のメッセージを送り、20秒後にシステムサービス電話の「警報」が鳴り、現場スタッフへ携帯電話からただちに情報が入る。

現在、このスマート遠隔制御配電ボックスは国際電気工学検査 IEC、中国電気工学検査 CNAS、アメリカが用いる基準 AQL-105D から認定され、各家庭、学校、病院、銀行、工場、スーパーマーケットなど幅広く使用できる。また、安全検査、消防、電力などの部門がリアルタイムで監視と観測ができて、ユーザ側の安全が確保できる。

2017年6月23日

華中師範大学がアジア研究院を設立

昨日、華中師範大学で行われた第一回「アジアフォーラム」で、当校のアジア研究院が正式に設立された。日本籍の歴史家、漢学者、アメリカ人文と科学院の外国籍会員である濱下武志氏が院長を務める。

華中師範大学アジア研究院は、当校の歴史学、政治学、社会学、文化学、国際関係、言語学などの重点学科を活用し、ハーバード大学、香港科学技術大学、アメリカラトガース大学、東京大学などの国内外の名門校及び関連研究機関と手を携え、国際協力科学研究プラットフォームとアジア研究シンクタンクを作る。